

第8回 北海道ハムフェア 「WAKAMONO パネルディスカッション」記録(まとめ)要旨

日 時 2025 年 9 月 20 日(土) 13:50～14:50
場 所 デ・アウネ さっぽろ(札幌総合卸センター)2 階 205AB 会議室

0. パネリスト

- JM8PDT 澤田 陵佑 氏(WAKAMONO・専門学校生)
- JM8UYD 茂木 遥平 氏(WAKAMONO・大学院生)
- JJ8LNX 相内 要 氏(保護者・現役世代)
- JL8ELK 相蘇 孝哉 氏(教職員・現役世代)
- JA5SUD 森田 耕司 氏(アドバイザー・JARL 会長)
- JK8CFM 岡田 壮弘 氏(モデレータ・現役世代)
- JL8JFX 横濱 敦史 氏(アシスタントモデレータ・現役世代)

1. アブストラクト(要約)

本パネルディスカッションは、減少し続けるアマチュア無線家、特に若年層をどのように増やしていくかという喫緊の課題に対し、若手オペレーター、保護者、および教職者といった複数の視点から現状を分析し、具体的な課題と解決策を議論したものである。パネリストは、札幌工業高校(JA8ZRH)や北海道大学(JA8YBY)のアマチュア無線クラブの復活といった成功事例を共有する一方、アマチュア無線の認知度の極端な低さ、初期費用や設備設置の困難さ、そして経験者(OM)からの「望まぬ指導」が若者の参入を阻む大きな障壁となっていることを浮き彫りにした。議論では、若者が活動を楽しそうにやっている姿を見せること、ライセンスフリーラジオ(フリラ)を導入として活用すること、および初心者に配慮した OM の振る舞いが、今後の若年層増加に向けた重要な鍵であると結論付けられた。

2. パネリストの主な発言要旨

パネリスト名	主な発言要旨
JM8PDT 澤田氏 (専門学校生)	きっかけは特定小電力トランシーバー。中2で4アマ、中3で3アマを安価(合計6,000円)に取得できたことが大きい。新旧スプリアス問題や開局費用で意欲が低下した経験がある。札幌ジュニアアマチュア無線クラブ(JR8YLF)などの少年団クラブが金銭問題を解決する上で重要である。約40年ぶりにJA8ZRHを再開局させ、昔の交信相手から声をかけられた際に無線の面白さを実感した。
JM8UYD 茂木氏 (大学院生)	登山届にコールサイン記入欄があったことをきっかけにアマチュア無線を始めた。北大の社团局(JA8YBY)の復活に成功し、X(旧Twitter)での広報活動が後輩の獲得に効果的だった。若者に無線の楽しさを伝えるには、自身が楽しそうに活動する姿を見せることが有効である。若者は「最初の交信が怖い」と感じており、また、OMから求めている技術的な指導などをもらうことに抵抗感がある。
JL8ELK 相蘇氏 (高校教師)	学校にアンテナを上げることにについて他の教職員の理解を得ることが非常に難しい。現任校では、工学系の「ロボティクス部」の生徒が興味を示したことで、事務職員と校長に理解があったことがJR8YQGを再開局できた要因である。再開局にあたって機材の多くは寄付によって賄われた。女子生徒へのアピールが現在の課題である。
JJ8LNX 相内氏 (保護者)	自身の子どもには、「面白いかつまらないかに関係なく、まず体験させる」という方針で免許を取らせ、環境を整えた。ライセンスフリーラジオやCBで、沖縄と交信できた経験(27mバンド)は非常に面白かった。子どもたちには、OMからの専門的な話(リグやアンテナの指向性の話など)はまだ理解できていないため、優しく接するようOMに要望した。特定小電力レピーターなど、「飛ばないはずが遠くまで飛ぶ」体験が子どもたちの興味を引く。
JA5SUD 森田氏 (JARL 会長)	SD会議(アマチュア無線継続的発展会議)において、若者の意見をヒアリングするために来ていただいた高専生が、クラスでアンケートをとった結果、理系のクラスであるにもかかわらず「アマチュア無線」という言葉を知っているのは40人中2人しかいなかった。社会的な認知度を上げる努力が必要である。関西万博での体験運用では、若者や女性が「こんなに簡単に遠くの人と繋がるんですね」と感動しており、潜在的な需要があることを確信した。

3. 現状の問題と課題

パネルディスカッションを通じて浮き彫りになった若年層増加に関する主要な問題と課題は以下の通りです。

①認知度の低さと宣伝の課題

- ・「アマチュア無線」という言葉自体が社会に浸透していない(理系の高専生においてさえ認知度が極端に低い)。
- ・日常生活やメディアで無線に触れる機会がなく、興味を持つきっかけとなるアクションがない。
- ・多くの若者は「携帯(電話)で良くないか?」と考えており、携帯電話にはない強みや面白さを伝えるのが難しい。

②初期費用と環境整備の課題

- ・機材(新品のリグ、アンテナ)を揃えるための初期費用が高い。
- ・公立高校では新規の部活への予算配分が遅れる(設立から5年経たないと予算がつかないケースもある)ため、開局費用を若者自身が負担せざるを得ない。
- ・学校でのアンテナ設置に対する教職員の理解を得るのが困難であり、防水などの問題でクラブ局の立ち上げが頓挫しやすい。

③既存コミュニティ(OM)との関係性の課題

- ・若者にとって初めての交信(コンタクト)が怖いという心理的な壁がある。
- ・経験豊富なオペレーター(OM)が、求めている技術的なアドバイスや、初心者を萎縮させるような高圧的・一方的な指導を行うケースがあり、これが若者の参入意欲を削ぐ要因となっていることがある。

4. 課題解決に向けて

若年層のアマチュア無線家を増やすために、パネリストや参加者から提案された解決策、行動指針は以下の通りです。

①体験機会と認知度の向上

- ・大規模な体験運用イベント(例:関西万博、ARISS スクールコンタクト)を積極的に実施し、若者や女性に「無線がこんなに簡単で遠くと繋がる」楽しさを実感してもらう。
- ・若者が楽しそうに活動している姿を積極的に見せ、アマチュア無線の魅力をアピールする。
- ・SNS(X(旧 Twitter)など)を活用して活動を宣伝し、仲間を集める(北大 YBY の成功例)。

②入門の容易化と費用の軽減

- ・ライセンスフリーラジオ(フリラ)をアマチュア無線への導入ツールとして活用する。特定小電力トランシーバーやデジタル簡易無線は安価で、予想外に遠くまで飛ぶ体験が若者の興味を引く。
- ・使わなくなったリグやアンテナを寄付してもらい、機材調達が困難な新規クラブや若者に提供する(札幌龍谷学園高校の成功例)。
- ・(保護者・指導者側が)子どもにまず無線を体験させる環境を用意する(「とりあえず体験させてみる」)。

③OMの意識改革と育成支援

- ・OMは初心者の相手をする際、若者(初心者)のレベルに合わせた適切な対応を心がける。
- ・若者が望まない技術的アドバイスや、威圧的な態度を避ける。
- ・OM側が「仲間を増やすにはどのようにしたらよいか、どのようにしたら面白さを感じてもらえるか」を常に意識し続ける必要がある。

④クラブ運営の工夫

- ・工学系以外の生徒、特に女子生徒へのアピール方法を検討する。
- ・大学のクラブでは、バーベキューなどの活動と合わせて無線体験(特小など)を実施し、体験の機会を増やす。
- ・学校にアンテナを上げる問題については、理解のある職員や校長を見つけ、協力を仰ぐことが重要である。

以下の内容は、パネルディスカッションの場では時間の都合により発言する機会がなかった方々からの、若手アマチュア無線家増加に向けた課題と解決策に関する意見です。

JM8JXV 山本氏(WAKAMONO・大学生)

- ・ アナログブームの活用: フィルムカメラやレトロブームといったアナログ趣味が再燃している現代において、アマチュア無線もこの波に乗って推していくべきである。
- ・ 参入障壁の認識: アマチュア無線は、金銭面、場所、知識など、**始めにくい趣味**であることが大きな壁となっている。
- ・ イベントの促進: 長期休暇期間中のラジオ工作会のように、入口のハードルを低くする活動が増えているのは良い傾向であり、さらにイベントを増やすべきです。特に大学(情報系・電気系)とのコラボレーションなどが提案されています。
- ・ イメージの改善: アマチュア無線は、理系(特に機械・電気系)以外の人には心理的にとっつきにくいイメージを持たれがちである。ただし、アナログ系の趣味を持つ人には刺さる可能性がある。

JM8NPZ 田岡氏(WAKAMONO・現役世代)

- ・ 人口減少の危機感: 現在の 40 歳以下の無線人口は JARL の 2022 年統計で約 2.7%(5.4 万人のうち 1,461 人)しかおらず、10 年 20 年後には組織を動かす中間層が減少する問題を抱えている。アマチュア無線存続の第一歩は、少子化による人口減少率よりも無線人口を落とさないことである。
- ・ 費用の壁: ハンディ機でも 15,000 円以上、モバイル機と設備で 30,000 円以上かかり、保護者目線で「アマチュア無線は高価な趣味である」という認識は心に留めておくべき。
- ・ 親世代の認知度と携帯電話の影響: 1985 年のショルダーフォン以降、携帯電話やスマートフォンが普及し、「いつでもどこでも繋がれる」ことに慣れた親世代は、無線通信の必要性を感じていない。親世代の認知度を上げ、親子で無線を使うことが学生ハム増加に繋がる可能性がある。
- ・ JARL の会費見直し: JARL の新規者への会費割引の対象を、「**免許取得後 3 年以下の人**」まで拡大することを提案する。また、社会人であれば趣味の金額を平等に支払うべきとして、**家族会員制度の撤廃**も検討すべきと考える。
- ・ 違法局対策の強化: 北海道ではダンプ・トラックによるアマチュア無線を使用した業務利用(長時間占有、業務通信、無免許)が絶えない。清い無線活動を進めるためにも、違法局の撲滅に真剣に取り組むべき。
- ・ 積極的な応答: 経験豊富な局(我々)が交信を活発にすることは、新規局にとって勉強になり、魅力的な存在となり得るため、CQ にはぜひ応答すべきである。
- ・ 体験運用の活用: 体験運用は法整備が進んだため、若者だけでなく**免許を持たない大人にも簡単に機会を提供**できる。
- ・ 旧設備の保証問題: 古い無線機(旧スプリアス機)の JARD 保証認定が、5,000 円以上かかり、申請内容が「適合しています」の 3 行 PDF で煩雑である点に対し、メーカーと協力し、**申請の敷居を下げる**よう動くべきである。
- ・ 他の分野との関連性の強調: アマチュア無線は、通信、電気、電子、建築土木、機械ものづくり、コミュニケーションなど多岐にわたる分野と関連が深く、「**ものの仕組みを理解し、探求する**」趣味としての価値がある。アマチュア無線が社会にどう貢献できるかについて、答えを持ち合わせておく必要がある。
- ・ スマートフォンの優位性: スマートフォンは、通信、写真、ゲームなど全てのコンテンツをパッケージ化した。アマチュア無線は、その仕組みを知ろうとする人が少なくなった反面、工夫して**楽しむコンテンツ**であり、スマートフォンと一切重ならない唯一の利点である。

JL8JFX 横濱氏(アシスタントモデレータ・現役世代)

- ・ 初 QSO の恐怖: アマチュア無線を始めたきっかけは知床遊覧船事故のニュース(不法無線局)だった。その際の初 QSO はとても怖かった。しかし、その相手が岡田氏(JK8CFM)だったため、現在も無線を続けられていると思う。
- ・ 暗黙のルールと OM の態度: コンテストのルールなどは初心者には難解である。また、明文化されていない暗黙のルールやローカルルールを知らずに運用すると OM から厳しく指導される。また、メインチャンネルでの長時間の呼出交信などに対し厳しく叱責する局長や、メインチャンネルで喧嘩をする OM がいた。これを聞いた若者は「**アマチュア無線って怖い人が多い**」と思ってしまわないか。
- ・ 交信時の問題行動: 長時間ワッチしてノーメリットであった周波数で周波数チェックをしても「使ってるよ」と言われることがある。時には交信を始めると「使ってるよ」と言われたり、**無変調を被せられた経験**がある。また、知り合い同士のラグチューは賑わっていても、CQ を出しても応答が全くないことがある。一部の OM によるマウントを取る言動も存在する。
- ・ SNS の積極的な活用: ウェブサイトと異なり、SNS(X(旧 Twitter))は「おすすめユーザ」などにより**偶然表示されることもある**ため、受動的に情報が届く可能性がある。若者が多く使う SNS はアマチュア無線の敵ではなく、うまく活用することが肝要である。

- ・認知度向上のための具体的なイベント提案: ハムフェアや夏休みラジオ工作会のチラシ・ポスターを学校へ配布すること。電波の出前教室の開催。雪まつり特別局を公式イベント化(観光協会公認)し、公式 HP や会場内放送でアピールすることで、保護者や若者の関心を引く。
- ・組織への若者登用: JARL 社員、北海道地方本部や支部役員といった組織運営に、若者(現役世代の人)を登用することで、若者が活躍できる場や意見が反映できる場を設けるべき。
「OM の OM による OM のための活動」ではダメ。
- ・OM の意識改革: 「若者を育てる」という気持ちを醸成し、同じ趣味の仲間として温かい目で見守るべき。初対面の人にいきなり説教や押しつけ指導をすれば、誰でも嫌になる。
- ・リグの価格問題: HF 機が 100,000 円を超えるのは若者にとって厳しく、リグの低価格化やサブスクサービスの拡充(メーカーの協力が必要)が求められる。
- ・アマチュア無線家の対等性: アマチュア無線家は皆対等な立場であり、同じ趣味を持つ仲間である。新芽(若手アマチュア無線家)を育てるのも刈り取るのも、すべて既存の無線家(我々)次第であるという認識を持ち、若手の育成に努める必要があると強く訴えたい。



パネリストの皆さん

以上

作成: JL8JFX (Google NotebookLM を活用)